



説教要旨 「恐れからの解放」

ルカによる福音書 8 章 26～39 節

イエス様と弟子たちはガリラヤ湖を渡ってゲラサ人の地方、つまり知る人のいない異教の地に上陸し、そこで悪霊に取りつかれた男を開放します。

レギオンと名乗る悪霊に取りつかれていた男は、「長い間、衣服を身に着けず、家に住まないで墓場を住まい」としていました。鎖に繋がれても、それを引きちぎって逃げ出していました。彼は社会の秩序や人間の決まりの中に身を置いて生きることができない、そこに彼の居場所はなかったのです。この男がイエス様によって解放された時、正気に戻って服を着て、イエス様の足もとに座っていました。彼は、イエス様の足もとでそのみ言葉を聞く者となりました。彼はイエス様の足もとに、自分の居場所を見出したのです。

しかし、この救いの出来事を見たゲラサ地方の人々はイエス様に、「自分たちのところから出て行ってもらいたい」と願い出ました。悪霊に取りつかれ、正常な社会生活を送れなくなっていた同胞の一人が、正気になり、普通に生活できるようになったことを、喜ぶのではなく、豚を失った経済的損害の方を重く見て、イエス様のことを恐れたのです。こんなことを繰り返されたらたまらない、自分の生活が成り立たなくなってしまう、と思うのです。そのような恐れに取りつかれて「自分たちのところから出て行ってもらいたい」とイエス様に語ったこの人たちの姿は、先ほどまで悪霊に取りつかれていた人が「かまわないでくれ。頼むから苦しめないでほしい」と言ったのと重なります。悪霊は今度は彼らに取りつき、彼らの思いと言葉は悪霊に支配されてしまっているのです。恐れに取りつかれてイエス様に出て行ってくれと言っている人々と、イエス様の足もとに座ってみ言葉に聞き入っている人、悪霊に取りつかれている人間と、そこから解放されて正気になった人間の対比が、この場面に描き出されています。

イエス様は今、足元に座る私たちに、「自分の家に帰りなさい。そして、神があなたになされたことをことごとく話して聞かせなさい」と語りかけてくださっているのです。

(2019・1・13 説教者：稲垣真実)